

2019年5月7日（火）19:30より

Evangelische Stadtakademie Bochum Westring 26 c, 44787 Bochum

渡辺美奈（東京・アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」館長）

„Remembrance is timeless（時間を超える記憶）“
－ 日本の“慰安婦”運動

第二次世界大戦後 60 年の 2005 年夏、アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」（wam）は東京に開館した。wam は、女性への戦時性暴力の記録と歴史的調査の拠点である。その起点となっているのは、日本軍が第二次世界大戦中、韓国を始めとした様々な国々において、女性を「慰安婦」として性奴隷のように扱った戦争犯罪である。

「慰安婦」に関する歴史的事実と、その女性たちの運命を回想することで、wam は、このような犯罪が起こってしまったことの責任をだれが負うのか、という論議をよぶ問いをわたしたちに投げかけている。そして、何よりも、この資料館にとって重要なことは、人々を、歴史を思い起こし考えるプロセスへと導き、その上で、活発に声をあげていくことにつなげていくことである。このようなことが「世界中で二度と起こらぬように！」と。

この講演では、資料館（wam）の成り立ちの歴史を解説し、また、日本の政治における歴史記憶の文化にとってのその意味をも浮き彫りにする。また同時に、Stadtakademie がドルトムントでの Kirchentag に際し、企画しているアートプロジェクト「"Bottari" - Bündel der Erinnerung」においては、日本の位置付けが欠かせない要素であるが、そのプロジェクトへの準備としても重要な意味を持つものである。

渡辺美奈氏はアクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam)の館長であり、1990年以降、女性の権利のためのアクティヴィストとして、NGOや議員事務所において、日本軍の性奴隷制と関連する戦争犯罪の問題に取り組んできた。2000年に東京にて行われた、日本軍性奴隷制を裁く女性国際戦犯法廷にも深く関わった。また、「慰安婦」に関する多数の本を出版しており、国際的に、調査報告や議論の場に招かれている。

費用：5ユーロ

日時：2019年5月7日, 19:30-21:30